

# 箕面市教育大綱2021の進捗報告

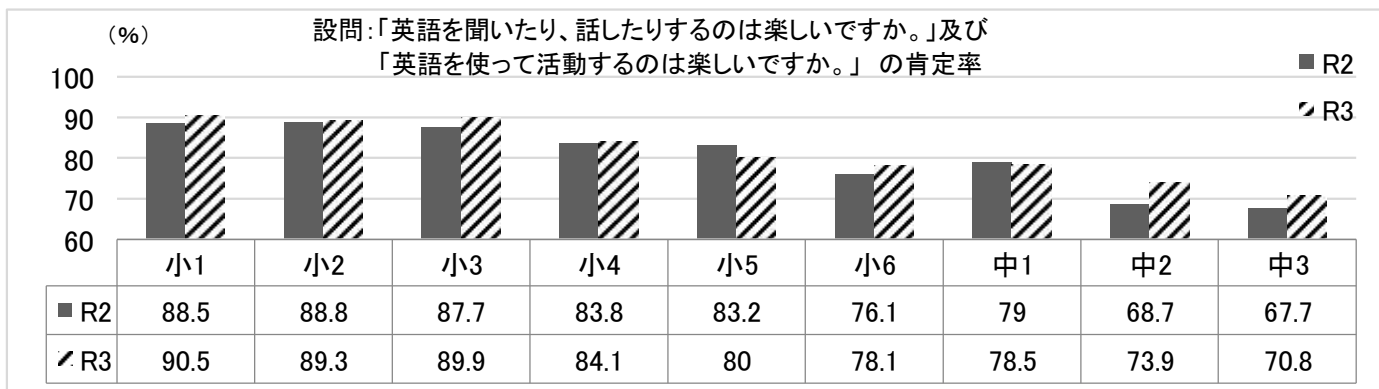
## 学校教育 子どもたちの「生きる力」と「つながる力」を育みます

### ① 英語教育の強化によるグローバル人材の育成

- ◆ 外国人の英語指導助手を全ての小学校に3～5人、中学校に3～4人ずつ配置し、全76人体制を目指します。
- ◆ ティームティーチングや1クラスを分割した少人数での英語活動を通して高い英語力を身につけます。

#### 令和3年度上半期取り組み

- 英語教育支援員、中学校英語コーディネーターによる学校訪問、情報共有、授業づくりのアドバイスを実施しました。
- 計33人の英語指導助手を小中学校に配置しました。(2学期時点)
- コロナ禍の対応として、イングリッシュタウンは人数制限をして、1～2クラスごとの体験にしました。イングリッシュ エクスプレッション コンテストは、保護者と各校向けにZoom配信しました。
- i-checkの英語教育に関するアンケート結果を分析しました。



### 今後の方向性

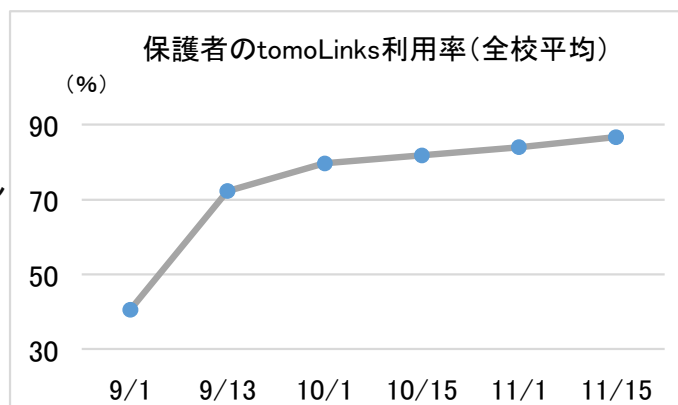
- 「英語で自分の考えを表現する」「英語で友だちや教員とつながる」を目標に、授業づくりを進めます。
- 英語指導助手については、令和4年2月までに欠員分を新規招致する予定です。

### ② ICTを活用した情報活用能力の向上

- ◆ 1人1台のタブレット端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備します。
- ◆ デジタルドリルを活用した個別最適化学習や持ち帰り学習を検討します。

#### 令和3年度上半期取り組み

- 1人1台のタブレット端末とネットワーク環境を整備しました。
- コロナ陽性者以外にも、コロナ不安等で学校に登校できない児童生徒に対してZoomを活用してオンライン授業を実施しました。
- 2学期から学習支援ソフト「tomoLinks」を利用したオンライン授業やデジタル連絡帳の運用を開始しました。
- デジタルドリルを活用し、一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度等に応じた個別最適化学習や、持ち帰り学習を実施しました。



## ② ICTを活用した情報活用能力の向上(つづき)

### 今後の方向性

- オンライン授業等の推進に向け、校内ネットワーク環境の充実について検討します。
- 各校において学習支援ソフト等を活用し、子どもたちが自ら考え、意欲的に課題に取り組めるようバックアップします。

## ③ 体力向上を図る取り組み

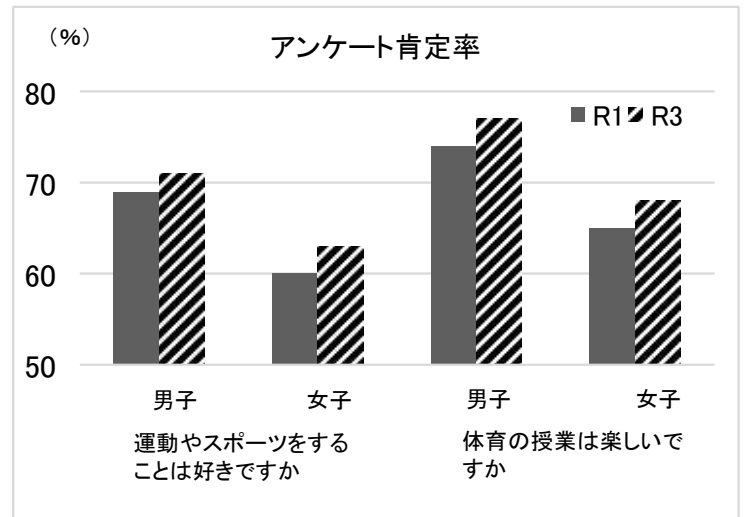
- ◆ 副読本・指導書を活用した体育授業から運動に対する意欲を高める取り組みを行います。
- ◆ 小・中学校の箕面子どもステップアップ調査の分析結果を地域の関係団体と共有しながら、体を動かすことが大好きな子どもを育みます。
- ◆ 熱中症対策をしたうえで夏季の運動機会の確保に努め、児童生徒の体力向上を図ります。

### 令和3年度上半期取り組み

- 各校の体力向上担当者を対象とした体力向上推進部会を開催し、「熱中症」、「体育科年間カリキュラム」、「校区体育授業公開研究会」等の情報について共有しました。
- 箕面市体力運動能力調査を実施し、結果を分析しました。

全国平均を上回った種目	実施学年	全国平均を上回った学年
握力	小5～中3	小5、小6
長座体前屈	小5～中3	小5、小6
立ち幅跳び	小1～中3	小1(女子)、小2、小3、小4(男子) 小5(女子)、小6(男子)

- 副読本により、子どもたちが内容を理解しながら学習することができました。理解の深まりが子どもの運動に対するイメージを肯定的なものにし、体を動かすことが好きな児童が増えました。
- 各校区毎(前期は1校区のみ。12月以降で小中一貫校区含めた7校区で実施)で指導書・副読本を活用した体育授業研修会を実施しました。中堅層の教員の授業を観ることを通して、校区の体育科における授業力向上を進めました。
- 体力向上推進部会では、新型コロナウイルス感染症対策、熱中症対策を講じた体育授業の方法について体力向上担当者と検討、共有しました。



※令和2年度の体力調査は新型コロナウイルス感染症の影響で11月下旬～12月に実施したため、同時期(4月中旬～5月)に実施した令和元年度と令和3年度を比較

### 今後の方向性

- 中学生の体力向上のため、小学校教員を対象に行っている体力向上推進部会を、中学校まで範囲を拡大して実施する方向で検討します。
- 引き続き、副読本・指導書を活用し体育授業から運動に対する意欲を高め、体を動かすことが大好きな子どもを育むとともに、コロナ禍においても運動機会の確保に努め、児童生徒の体力向上を図ります。

#### ④ 小中一貫教育のさらなる推進

- ◆ 9年間の連続性のあるカリキュラムの策定や連携型小中一貫教育の推進に向け小中学校間を一体化した人事配置に着手します。

##### 令和3年度上半期取り組み

- プログラミング教育は各学年における具体的な取り組みが定まっていないため、9年間の連続性のあるカリキュラムを策定する必要があります。このカリキュラム策定に向け、論理的思考について、小学校では基礎的、中学校では発展的に活用できる内容を検討しました。
- カリキュラム策定に向け、目標となる指標検証方法について協力企業と協議・検討を行いました。
- カリキュラム策定に向け「プログラミング教育検討委員会」の設置に向けて検討を行いました。

##### 今後の方向性

- プログラミング教育検討委員会を設置し、プログラミング教育におけるカリキュラムの素案の作成を進めます。

#### ⑤ 教員の授業力・指導力のさらなる向上

- ◆ 授業力、教員への指導力が傑出している教育専門監（指導員）を市費で配置し、訪問校の教員を直接指導するとともに、全小中学校の若手教員を指導する中堅教員に指導助言することで、教員の授業力・指導力の向上を図ります。

##### 令和3年度上半期取り組み

- 令和3年度から、2名の教育専門監を配置しました。教育専門監は、4月から9月にそれぞれ小学校2校を担当し、巡回訪問を実施しました。
- 各校の指導対象教員（訪問校の校長が指名した中堅期で授業力のある教諭）とともに、ティーチーム・ティーチング、授業参観と振り返り、指導案検討、教材研究、師範授業等の授業研究を実施しました。
- さらに校内研修の企画や準備にかかる指導助言、校内研究部会への参加などに取り組みました。

	対象校	指導教員	訪問回数
専門監A	箕面小	3名	週2回
	東小	3名	週2回
専門官B	萱野小	3名	週2回
	彩都小	3名	週2回

##### 今後の方向性

- 「教科の壁」等、中学校の校内研究推進の難しさから、中学校の教育専門監の養成について以下のパターンで検討します。

	教科ごとに養成(5教科+1教科の6名)	小学校の教育専門監と同じく教科横断的に養成(2~3名)※
メリット	導入のしやすさがあり、また、全校横断的に授業力の向上を図ることができる。	校内研究の活性化に向けた取り組みができる。また、少数教科にも波及できる。
デメリット	校内研究の活性化につながらない。また少数教科に波及しない。	教科横断的に指導助言できる教育専門監の育成が難しい。

※市内を東部・中部・西部等のエリアに分け、エリアの校区研究に関わる教科横断的な教育専門監を養成

- 小学校では1名が3校を担当し全校を巡回する体制をとることができるよう、また、中学校では教科毎に1名の担当を配置することを目標に、以下の取り組みを実施します。

令和3年度	教育専門監としての素質が見込まれる候補者(小・中学校)の選定
令和4年度	選定者を対象に指導力向上研修を実施し、モデルティーチャーとしてふさわしい授業力・指導力を育成
令和5年度	指導力向上研修を経て、さらに厳選した教育専門監候補生を対象に教育専門監養成研修を実施

## ⑥ 35人学級の早期実現

- ◆ 国の動きに先駆けて、令和3年度に小学校3年生を35人学級とし、1年前倒しで令和6年度までに順次、全学年へ拡大することで、きめ細かな指導体制・環境整備を早期に構築します。

### 令和3年度上半期取り組み

- 小学校3年生の35人学級推進のため、授業支援員を南小、西南小、萱野東小、豊川北小、彩都の丘小に各校1名ずつ、計5名配置しました。

### 今後の方向性

- 令和4年度は小学校4年生の1学級の児童数が35人を超える学校は6校の予定であるため、合計6人の授業支援員を配置します。以降も順次学年を拡大することによって、国よりも1年早く全学年の35人学級を実現します。

## ⑦ 児童生徒を誰ひとり取り残さない支援

- ◆ 学校になじめない、学習についていけない、病気等による長期欠席、生活困窮家庭及び日本語を母国語としないなどの児童生徒において、必要となる学習手段や居場所づくり等の支援を実施します。

### 令和3年度上半期取り組み

#### (1) いじめの早期発見・未然防止

- 新たに「生徒指導担当者会」を立ち上げ、月に1回程度、各校の生徒指導担当を対象にいじめ事案に対する対応、未然防止の大切さ(具体のワークショップ紹介等も含む)についての研修を実施しました。
- 学校がいじめ事案を認知した際の報告書を市教委へ提出するタイミングを昨年度より早めました。従来は認知→対応→指導→保護者連絡まで対応してから提出していましたが、いじめ事案を認知した時点で提出するように変更しました。
- 保護者対応について研修資料を作成し、各校に周知しました。
- 箕面市いじめ重大事態第三者調査委員会からの報告を受け、提言を受けての今後の本市の取り組みをまとめ、各校に周知しました。

### 今後の方向性

- 「いじめ」に対する正確な理解と学校組織での対応を、管理職、生徒指導担当だけでなく、学級担任、支援学級担任、介助員等の全教職員ができるようにします。
- 箕面市いじめ重大事態第三者調査委員会からの提言をふまえ、今後の本市の取り組みの進捗管理を行います。具体的には、以下の3点を実施します。
  - ① 学校いじめ防止基本方針の改訂に向けての指導を行います。
  - ② ICTを活用した相談システムの構築を検討します。
  - ③ 「SOSの出し方に関する教育」「いじめの四層構造の理解教育」の指導案を作成します。
- (仮称)箕面市支援教育充実検討委員会の早期開催に向け、学校の教職員も参加する委員会準備WGを立ち上げて検討します。

## ⑦ 児童生徒を誰ひとり取り残さない支援(つづき)

### (2) 日本語支援

- 日本語の習得が十分でない児童生徒に対しては学校における生活又は学習支援のための日本語指導者を、保護者に対しては学校等との連絡及び調整のための通訳者の派遣を行う箕面市日本語指導支援事業を行いました。(派遣校は以下の表のとおり)

日本語指導	言語	対象人数	派遣回数
萱野小、豊川南小、二中、四中	英語、中国語、ネパール語	5人	76回

保護者通訳	言語	対象人数	派遣回数
萱野小、東小、豊川南小、一中、二中、四中	英語、中国語、韓国語、ネパール語、インドネシア語	7人	11回

(令和3年11月30日時点)

- また、児童生徒に対し放課後等において日本語の習得に向けた支援を行う放課後等日本語教室支援事業を行いました。(実施校: 萱野北小、萱野小、二中、四中)

### 今後の方向性

- 中学校では教科が専門的になるため、学習言語を通訳できる日本語指導者の確保に努めます。
- 急な転入の場合でも、速やかに支援が行えるよう学校と連携しながら事業を進めます。

### (3) 学力保障・学習支援事業

- 不登校や病気による長期欠席等により、学習支援を必要とする児童生徒を支援するとともに、当該児童が中学卒業後においても将来の進路を選択する能力を習得する機会を提供するため、学習を中心とした支援を行う学生サポーターを派遣しました。(事業者と担当校区は以下の表のとおり)

NPO法人あっとすくーる	株式会社トライグループ
二中校区、五中校区、六中校区、とどろみの森学園	一中校区、三中校区、四中校区、彩都の丘学園

### 今後の方向性

- 令和3年度については、本事業を利用する中学3年生に対する派遣回数を増やし、コロナ禍においても受験に向かって取り組んでいけるよう支援します。本事業を利用して中学を卒業した生徒に対しても、継続的な見守りが実施できるよう、進学先の高校との連携方法を検討します。

### (4) 放課後学習支援事業

- 昨年度まで8校でモデル実施していた「スタディルーム」を再編し、放課後学習室「すたさぼ」として全小学校へ展開しました。
- 放課後に自由に参加して学習でき、かつ安全に過ごせる場を提供しました。

### 今後の方向性

- 生活困窮世帯の児童の参加促進のため、学校と連携し対象児童の参加率向上に取り組めます。



## ⑧ 持続可能な社会に向けた学習の充実

- ◆ 新型コロナウイルス感染症対策として、学校教育に新しい生活様式を取り入れていく。また、SDGs の17の目標を実現していくために、これから社会の主役となる子どもたちが自ら考え、行動できる学びの充実に図ります。

### 令和3年度上半期取り組み

- 給食の残食率を毎月調査し、残食率10%以下を目標として食べ残しの削減に取り組みました（全校平均残食率:米飯 9.5%、副食 8.5%、牛乳 7.4% 1学期時点）
- SDGsとは何かを知り、考えるきっかけづくりとするために、3～6年生のすべてのクラスが、大阪府公民戦略連携デスクからの「OSAKA子どもの夢」応援事業の出前授業を受けました。（北小学校）
- JA出前授業や国際交流としてイラン、ペルー、タイの人たちと交流した際に、各国における環境問題について考えを深めました。（西南小学校）
- SDGsの取り組みの一つ、貧困をなくすことやつくる責任、使う責任など、環境教育についての講話や職業についての学習を行い、実際に洋服のリサイクルなどを企業と共に取り組みました。（第六中学校）

### 今後の方向性

- 給食の食べ残しをより削減するために、引き続き全校の残食率を調査し、提供量の見直しやメニューの改善に努めます。
- 栄養士による食育の授業を行い、児童生徒が自発的に「残さず食べよう」という意識を持つよう啓発を行います。
- 引き続き、各学校でSDGsについての学びの充実に図ります。



## ① 豊かな人間力を育むための子育て支援

- ◆ 体罰によらない安心・安全な子育ての啓発と支援をします。
- ◆ 子育て世代包括支援センター、子ども家庭総合支援拠点の考え方をベースとした相談体制を構築するとともに、個別の課題に応じた支援を実施・展開します。

### 令和3年度上半期取り組み

- 厚生労働省チラシ「体罰によらない子育てを上げよう！」を、1歳6か月児健診、3歳6か月児健診事後指導、就学前健診で配布、子育て支援センター等に設置しました。
- 虐待通告受理後の家庭への対応の際に、体罰禁止の周知と安心安全な子育てに向けた支援を実施しました。
- 子育ての方法について、乳幼児健診、子育て支援センター、子育て応援ブック「SMILE」、おひさまメール等を通じてタイムリーに情報提供を行いました。
- 複数課題のある家庭に対して個別支援を行いました。

※要保護児童対策協議会登録件数 要保護:361件、要支援:123件、特定妊婦:1件 (R3年11月末時点)  
要保護:386件、要支援:110件、特定妊婦:9件 (R2年3月末時点)

### 今後の方向性

- 妊娠期からの切れ目ない支援、誰もがいつでも相談できる体制、リスク度に応じて迅速に対応できる体制の強化を図ります。
- 体罰によらない子育ての方法に関する啓発を含め、子育て世代包括支援センター関係各室、児童相談支援センター(子ども家庭総合支援拠点)の取り組みについて、相互にタイムリーな情報共有や連携、協議の場を持てるよう、定期連絡会で進捗管理しながら体制強化を図ります。



## ② 貧困の連鎖の根絶

- ◆ 乳幼児期から小中学校、高校卒業の時期に至るまで、誰ひとり取り残さず切れ目なくそれぞれの子どもの状況を把握し、自信と能力、気概をもてるようサポートし続けます。
- ◆ 子ども成長見守りシステムのデータや教育・福祉等の関係機関からの情報をもとに、必要な場合は学校等に助言・指導し、支援方策についてコントロールします。

### 令和3年度上半期取り組み

- 支援の必要な子どもを早期発見し、支援につなげるため、令和3年7月に「子ども成長見守りシステム」のデータを学校に提供し、学校や関係機関と連携して情報収集し、必要に応じた支援につなげました。  
※連携件数:36件、延べ回数:205回 (R3年11月末時点)  
連携件数:77件、延べ回数:284回 (R2年3月末時点)
- 支援が必要な市内全域の児童が利用できる「生活・学習支援事業」「相談・支援連携事業」を開始しました。
- 生活習慣の乱れや社会性の不足など生活面の課題を抱える子どもに対して、居場所や家庭訪問における相談支援、日常生活習慣の形成、社会性の育成のほか、体験活動等の取組、子どもや保護者に対する養育に必要な知識の情報提供、世帯全体の課題解決に向けた相談支援等を開始しました。

### 今後の方向性

- 今後も見守りシステム活用会議を定例開催しながら、学校との関係づくりを継続し、早期に支援につなげるため、日常的に情報連携できる体制づくりの維持に努めます。
- 委託先NPO法人との連絡を密にし、保護者、児童にとって最も適切な支援を実施できるように努めます。

### ③ 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援

- ◆ 子育て世代包括支援センターを拠点として、妊娠届を端緒に、すべての妊産婦や子育て中の保護者に対して、安心・安全ですこやかな妊娠・出産、産後をサポートします。

#### 令和3年度上半期取り組み

- 多胎妊娠のかたに妊婦健康診査受診券を5回分追加し、助成を拡充しました。また、妊娠届出時や子育て中の保護者が集まる様々な機会をとらえて、保育士や保健師がニーズを聞き取り、妊娠期から子育て期まで切れ目なくアプローチするよう努めました。
- 4～6月の子育てサロンは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止しましたが、育児相談会、両親学級、乳幼児健康診査は感染予防対策を行い実施し、タイムリーに相談できる機会を持つことで孤立化を防ぐよう努めました。
- 核家族化により、家族等から十分な育児等の援助が受けられない産婦及びその子を対象に、病院等における宿泊型・日帰り型産後ケア、利用者の居宅等を訪問する訪問型産後ケアを実施し、産後の心身の不調や産後うつにつながる孤立化の防止に取り組みました。

産後ケア	
訪問型	4月～7月 64回(前年度51回) 利用
日帰り型	4月～7月 16回(前年度 5回) 利用
宿泊型	4月～7月 39回(前年度16回) 利用

#### 今後の方向性

- 産後うつ発症予防のため、産後の母親の身体的回復と心理的な安定が重要なため、引き続き産後ケア事業を行います
- 産後ケア事業の利用が増えているため、訪問する助産師をさらに確保します。

### ④ すべての子どもが安心できる幼児教育の実施

- ◆ 市内保育士・幼稚園教諭の子ども理解力・実践力・連携力の向上を図るとともに、すべての子どもが安心できる就学前教育保育・支援教育保育のあり方を研究するため、公立・私立を問わず、人材開発及びインクルーシブに関する調査研究等を実施する(仮称)箕面市幼児教育センターの設立を検討します。

#### 令和3年度上半期取り組み

- 先進市の幼児教育センターを視察し、事業内容、体制、成果や課題等を調査し、原案を作成、検討しました。
- (仮称)箕面市幼児教育センターで行ってほしい事業や研修内容等についてアンケートを実施し、民間幼児教育・保育施設のニーズの把握に努めました。

幼児教育センターで行ってほしい事業		
順位	事業	具体案
1位	研修	—
2位	訪問、相談	入所に向けての保護者対応、要支援家庭、職員対象などの相談や支援
3位	就学前施設間の連携	就学前の引継のとりまとめをしてほしい
4位	小学校教育との連携	各保育施設と各小学校のコーディネートをしてほしい
5位	情報発信	幼児教育、子育て関連についての機関誌の発行やメール、動画配信
6位	研究	支援教育について(集団づくり、成長の追跡、要支援家庭への関わり方)
7位	その他	知識やノウハウが豊富な専門アドバイザーの配置、他園との情報交換や交流の場の活用



#### ④ すべての子どもが安心できる幼児教育の実施(つづき)

- 令和3年8月に策定された「新箕面市アウトソーシング計画」で、公立幼稚園・保育所を再編・整備し、市立認定こども園を設置する方針が決定されたことに伴い、令和3年第4回箕面市議会定例会に、「箕面市立幼保連携型認定こども園条例」制定の議案を提出しました。

#### 今後の方向性

- 次年度10月からの(仮称)箕面市幼児教育センター開設に向けて、具体的な事業内容概要や運営指針等を検討します。
- 地域バランスも考慮した上で、公立幼稚園・保育所8園所を再編し、西部・中部・東部に1園ずつ公立認定こども園の設置を目指します。

#### ⑤ 子育て支援と外出促進

- ◆ 地域や同世代の子どもをもつ保護者とつながりをつくる機会として気軽に集える、過ごせる場を数多く設けます。
- ◆ 市内公園においては、物理的にゾーニングをした「幼児ユニット」の設置を進めます。

#### 令和3年度上半期取り組み

- 令和3年4月、桜児童水遊場をリニューアルし、0歳～3歳までの乳幼児専用パーク「さくらびよぱーく」をオープンしました。床面にはクッション性のある素材を使用し、夏期(7月20日～8月31日)は乳幼児水遊場として、また、夏期以外の時期は乳幼児パークとして、1年を通じて安心・安全に遊ぶことができるようになりました。



- キッズコーナーを令和3年5月、船場図書館に増設し、合計10ヶ所に展開しました。
- 子どもすこやか室の保健師等と子育て支援センターの保育士が協力し、出産前に子育て支援プログラムや子育てをする仲間と出会える情報を提供しました。
- 出産後も子育て支援センター等でおむつかぶれの対策ケアや、月齢に応じた発達など専門的な情報を提供し、利用者の子育てに関する不安解消に繋がりました。
- 令和3年度から着手した公園リニューアル事業において、市内の公園を順次整備する中、「幼児ユニット」を設置し、そのエリアを柵などで物理的にゾーニングし、幼児が安心して遊べる空間にしています。まずは唐池公園から今年度中のリニューアルオープンを目指して着手しました。

#### 今後の方向性

- 子育て支援センターのリピーターが増加する中、初めての利用者が参加しづらくなならないよう、職員が対象者に対して意識的に声をかけ、他の利用者との出会いのきっかけやつながりが作れるよう働きかけます。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、プログラムの中止や、参加人数の制限を実施していますが、ニーズに応えるためにも「出張子育て広場」などの開催回数を増やすなどの工夫に努めます。

## ① スポーツを通じた健康長寿への取り組み

- ◆ 乳幼児から若者、高齢者に至るまで、すべての世代の人たちが世代を超えて気軽にダンスやスポーツを楽しめるよう、スポーツ活動の環境整備、教室やイベントの実施・情報提供に努め、運動機会の充実を図ります。

## 令和3年度上半期取り組み

- 利用者が気持ちよく安全にプレーできる環境を維持するため、「箕面市スポーツ施設マネジメント計画」に基づき、スポーツ施設の設備や備品等の定期更新を実施しました。
- ダンスを通じて、健康寿命を延ばすため、0100 DANCE(ゼロヒャクダンス)プロジェクトとして、市民参加型プロモーション映像を市内の高校・大学の生徒・学生などの協力により作成し、市ホームページで周知しました。また、文化芸能劇場オープニングイベントにおいてダンスイベントを開催しました。
- 特に就職や子育てを機にスポーツから遠ざかっている方々が、スポーツを再開し、無理なく続けていけるよう、コロナ禍の状況を確認しながら、令和3年度実施メニューを決定し、スポーツ教室(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球)を中心にダンスやヨガ、子どもと一緒に参加できる親子ポッチャ教室などをメニューとしました。

## ＜令和3年度 Enjoy Sports! プロジェクト 大人のスポーツ・トライアル事業 実施メニュー＞

教室名等	実施回数	参加者数 (内は前年度)	教室名等	実施回数	参加者数 (内は前年度)
大人のバレーボール教室	5回	36人(28人)	みんなでボディコンディショニング	4回	5人(新規)
大人のバスケットボール教室	5回	24人(40人)	ZUMBA	4回	20人(新規)
大人のバドミントン教室	5回	24人(13人)	ムーンヨガ	2回	25人(新規)
大人の卓球教室	5回	9人(14人)	親子ポッチャ教室	3回	実施中(33人)
ゴルフ教室	4回	24人(新規)	親子スナッグゴルフ教室	3回	実施中(59人)
ダーツ教室	4回	3月実施(新規)			

※上記の実施メニューは、当初5月から実施予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて延期したため、感染拡大防止対策を十分に行いながら、9月末より順次実施中です。

## 今後の方向性

- 引き続き「箕面市スポーツ施設マネジメント計画」に基づき、定期的な設備や備品の更新を継続します。
- 市主催事業終了後も参加者がスポーツ活動を継続出来るよう、箕面市体育連盟や地域スポーツ団体への参加、総合運動場指定管理者が開く各種運動教室やコミュニティスポーツクラブが運営する教室への参加を促すため、広報活動などの取り組みを進めます。
- サントリーサンバーズ、株式会社モンベルとの包括連携協定を活かした事業を実施し、スポーツ活動を通じた地域の活性化を図るとともに、市民のスポーツ機会提供の充実に向けた取り組みを協力して推進していきます。

## ② 図書館サービスの充実

- ◆ 社会のデジタル化進展を活かし、来館しなくても図書を利用できる電子図書館の活用を推進します。
- ◆ 乳幼児から高齢者まで誰もが利用しやすい公共図書館づくりを進めます。

### 令和3年度上半期取り組み

- 3月23日に締結した豊能町との新たな図書館相互利用(試行)についての協定を4月1日から実施しました。
- 5月1日に船場図書館を開館しました。
- 5月26日に電子書籍を新たに500冊増やしました。

### <船場図書館利用実績及び電子図書館利用実績>

	船場図書館		電子図書館	
	貸出冊数	貸出人数	オーディオブック再生回数	電子図書貸出回数
4月	—	—	394回	854回
5月	1,275冊	536人	443回	1,251回
6月	11,438冊	3,125人	275回	841回
7月	30,356冊	8,071人	234回	705回
8月	32,339冊	8,648人	145回	709回
9月	26,596冊	7,553人	148回	407回

### <4月から9月までの豊能町との図書館相互利用実績>

	貸出冊数	貸出者数
豊能町民が 箕面市立図書館を利用	295冊 (188冊)	86人 (69人)
箕面市民が 豊能町立図書館を利用	10,107冊 (3,523冊)	2,107人 (1,024人)

( )内は令和2年度の豊能町との図書館広域利用実績

### 今後の方向性

- 令和5年に移動図書館を廃止することから、移動図書館利用者や、「はじめてのスマートフォン講座」受講者などデジタル活用が苦手な方にも、電子図書館利用のさらなる周知に取り組んでいきます。
- 誰もが利用しやすい公共図書館づくりを進め、図書館サービスの充実を図ります。

## ③ 生涯学習の場の充実

- ◆ 新設された船場生涯学習センター、船場図書館、文化芸能劇場を活用した国際理解の推進、芸術文化活動の振興など、大阪大学との連携協力をしながら、生涯学習の場を充実します。

### 令和3年度上半期取り組み

- 緊急事態宣言の影響により船場生涯学習センター及び船場図書館が6月21日から利用開始となりました。
- 秋の生涯学習講座として13講座を企画しました。そのうち7講座が大阪大学の教授等による船場生涯学習センターでの講座となります。



### 今後の方向性

- 大学と連携し、図書館資料を利用した学習の充実を図ります。
- デジタル活用の進展に伴い、「はじめてのスマートフォン講座」を電子図書館の活用も含めた内容で開催していきます。(再掲)
- 冬の生涯学習講座では、引き続き大阪大学と連携した船場生涯学習センターの講座や、おひさまルームと連携した子育て支援の講座を企画していきます。
- 文化財(八天石蔵)については、遺構の保全を着実に進めるとともに、豊かな自然のもと歴史を学びながらウォーキングを楽しむイベントによる活用をします。